

# 女性特有のがん検診無料の継続を

## 質問

がん対策は早期発見、早期治療が一番である。平成21年度、国の補正予算で、特定の年齢に達した女性に対し、無料クーポン券事業が盛り込まれ、子宮頸がんは、20歳から40歳まで、乳がんは40歳から60歳まで、それぞれ5歳刻みの年齢が対象者で実施。前政権では全額国費だったが、新政権では減額された補助金の中で、愛西市は22年度も実施された。



榎本雅夫 議員

本市の無料クーポン券の検診受診率の状況は。

## 市民生活部長

21年度の子宮頸がん検診は、対象者が2千9人で、678人、受診率は33.7%。乳がん

検診は対象者が2千376人で839人、受診率は35.3%である。

## 質問

この事業は5歳刻みの年齢が対象なので、公平に5年間は継続してほしいが。

## 市民生活部長

国、県や近隣市町村の動向を見据えて、対応を考えたい。

## 市長

予防・検診が第一であるので、今後、検討していきたい。

# 高齢者福祉施策の充実を

## 質問

愛西市の高齢化率は23.5%で、ひとり暮らし高齢者は1千345人、高齢者のみ世帯は1千965世帯である。福祉施策の充実を求める声を多く聞く。

## 質問

認知症の予防事業や地域支援体制の取り組みは。

## 福祉部長

平成20年度より、認知症サポートセンター養成講座を開催して、現在までに652人が修了した。

## 質問

高齢者福祉タクシー券の対象者を居間の独居の方など、調査をして助成できないか。

## 福祉部長

現状の把握がむずかしいのと、21年度は、利用枚数、高齢者の増加など、1千枚ほどふえている状況なので、現状で進めていきたい。

## 福祉部長

高齢者は地域包括支援センターで、21年度は9件。知的精神障害者は社会福祉課及び障害者地域生活支援センターで、2件の利用状況である。

判断能力が十分でない人の財産管理など、自分で行うことが困難な方を保護し、支援する成年後見制度の現状は。

養成講座の講師のキャラバンメイトは、現在12名が登録、今後も増やしていきたい。海部津島認知症ネットワーク協議会が平成20年度に設立されて、海部・津島地区で医療・介護が連携できるような活動を行っている。認知症のかかりつけ相談医として市内

同居人が障害者で車の運転ができない場合、特例で認定をしている場合もある。